

小学校教師による小4・5「総合的な学習の時間」の教材研究—1枚の写真を通して

## 私たちの梅田川

作成：永井一也（ながい かずや／仙台市立北六番丁小学校 教諭）

寸評：山下宏文（やました ひろぶみ／京都教育大学 教授）

**語り：**「美しい森の中をきれいな川が流れています。ここは遠い山の中？ いいえ、ここは学校から、直線距離で5～6kmの所の風景なんです。この写真は、学校のそばを流れる梅田川の源流です。わずかな距離、それも都会の真ん中を流れていく梅田川の水源地は、実は森の中なのです。

周りは住宅地。たくさんの人たちが生活しています。とても狭い森です。でも、とても深い森なのです。

みなさんは、「魚付き林」という言葉を聞いたことがありますか。漁師の人が山に木を植えるという話を聞いて驚いたことがあります。豊かな森林と川が、海の魚介類を育てることにつながっているのだそうです。遠く離れた海と山は、一見なんの関係もなさそうに思われますが、川は森林の豊かな栄養を海まで運ぶ役目をしているのです。そこで、最近では山の緑を含めて「魚付き林」と呼ぶこともあるそうです。

学校の近くの梅田川にはたくさんの生き物がいることを、みなさん知っていますね。サケが遡上してニュースになったこともありましたね。どうしてこんなにたくさんの生き物が暮らしているのでしょうか。梅田川の河口には、多くの生き物たちが生息する豊かな干潟があります。渡り鳥の中継地としても有名ですね。きっと狭いけれども、



▲仙台市青葉区国見ヶ丘付近を流れる梅田川

深くて豊かな森林が梅田川の生き物、そして河口の干潟の生き物たちの命を支えているのではないかと思います。森林・川・海を、つながりを持つ一つのものとして考えてみましょう。」

**意図（永井）：**この1枚の写真が、学区内を流れる梅田川のものとは子どもたちは想像もしないと思う。だからこそ、この写真が梅田川と知ったときの驚きは、子どもたちに森林・川・海へのさまざまな思いを抱かせる。教材としての価値が高いのは、水源から河口までを実際に見に行くことができることである。これまでの梅田川と人とのかかわりも重要である。梅田川は、水質汚濁がひどい川であった。しかし、地域住民による浄化活動が行われるようになり、かなり水質が改善された。浄化活動に子どもたちが参加することも可能である。水源付近、上流、中流、下流、河口にはそれぞれ小学校があり、学校間交流にも適した学習材といえる。

**寸評（山下）：**森林と川と海の深いつながりに子どもたちの目を向けさせようとする教材である。環境の学習では、こうした「つながり」や「関係」に着目することが重要である。森林環境教育を通して、森林を中心とした関係性の総体、すなわち「森林環境」に対する確かな認識を培いたいものである。

\*山下…〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1 Tel 075-644-8219（直通）